

1 昆虫を指標とした里山広葉樹林の評価手法

及び管理手法に関する調査（第2報）

予算区分： 国 補
担当科名： 森林育成科

研究期間：平成13年～15年度

担当者名：江崎功二郎

小谷 二郎

．目的

速乾性接着剤を用いてナラ類集団枯損被害の予防法を検討する。被害林および周辺森林の植物、昆虫、キノコ、鳥類相の変化について比較を行い、被害林の管理法を確立する。

．調査内容

単木的予防法の検討を行った。カシノナガキムシの穿入を物理的に防止するため、吉野谷村木滑でミズナラ8本の高さ0～4mまでの樹幹表面に速乾性接着剤(住友3M)をコーティング剤として用いて、近隣の立木を対象として比較を行った。

集団枯損被害林(3林分)アカガシ林およびアカマツ林にマレーズトラップ3基およびベンジルアセテートを誘因剤に用いた水盤付衝突板トラップ3基を設置した。

．試験結果

表1．接着剤処理木と無処理木の効果比較

処理木			無処理木			2立木 間距離	
no.	DBH(cm)	生or枯	no.	DBH(cm)	生or枯		
133	34	生	v.s.	134	36	枯	2.5m
135	40	生	v.s.	136	34	生	同株
137	34	生	v.s.	138	36	枯	1.0m
139	34	生	v.s.	140	26	生	同株
141	34	生	v.s.	142	26	生	同株
143	22	生	v.s.	144	28	生	同株
145	48	枯	v.s.	146	42	生	同株
147	28	枯	v.s.	148	50	生	3.5m
平均	34.3	枯率=2/8	平均	34.8	枯率=2/8		

接着剤塗布は6月6日に、結果は9月25日に調査を行った。

各立木に多数の穿入痕が見られ、接着剤塗布による予防効果は認められなかった。カミキリムシの多様性は立木被害の影響により変化することが認められ、アカガシ林およびアカマツ林では多様性は低かった。その他のデータについては解析中である。

．考察および今後の課題

被害跡地では森林環境が年々変化するので継続して調査する必要がある。